**令和６年度**

**第51回宮崎県高等学校総合体育大会**

**ローイング競技大会　兼**

**全国高等学校総合体育大会　及び**

**全九州地区高等学校体育大会　予選会**

****

**日　時：令和６年　６月１日（土）・２日（日）**

**場　所：新富町富田浜漕艇場　特設１０００ｍコース**

**主　催：宮崎県高等学校体育連盟・宮崎県教育委員会**

**後　援：公益財団法人宮崎県スポーツ協会・宮崎県ローイング協会・新富町**

**主　管：宮崎県高体連ローイング専門部**

**１日(木)　１３：００～開会式　　　１４：３０～予選レース**

**２日(金)　１０：００～決勝レース　１１：１５～決勝レース※**

**(※同率クルーの場合のみ)**

**目　　　　　次**

**１．大会役員　　　　　　　　　（３P）**

**２．競技役員　　　　　　　　　　（４P）**

**３．式典次第　　　　　　　　　　（５P）**

**４．参加クルー名簿　　　　　　　（６P）**

**５．競技上・審判上の諸注意　　　（７P）**

**６．応援上の注意・前年度記録　　（８P）**

　　　**勝ち点**

**７．ボート競技の見方　　　　　　（１０～１１P）**

**８．安全について　　　　　　　　（１２P）**

**９．大会航路図（公式練習）　　　（１３P）**

**１０．大会航路図（レース）　　　（１４P）**

**１１．組み合わせ　　　　　　　　　（１５～１６P）**

**大　会　役　員**

**名誉会長　　宮崎県教育委員会教育長　　　　　　　　　　黒木淳一郎**

**名誉副会長　　県ローイング協会会長　　　　　　　　　　　那須　司**

**会　　　長　　宮崎県高等学校体育連盟会長　　　　　　　　那　須　雅　博**

**副　会　長　　延岡商業高等学校長　　　　　　　　　　　　中　村　恵　子**

**〃　　　　専門部長　　　　　　　　　　　　　　　　　山　尾　典　子**

**主催地首長　　新富町長　　　　　　　　　　　　　　　　　小　嶋　崇　嗣**

**顧　　　問　　宮崎県教育庁スポーツ振興課長　　　　　　　田　中　裕　久**

**〃　　　　開催地支部長　　　　　　　　　　　　　　　山　尾　典　子**

**参　　　与　　高鍋高等学校長　　　　　　　　　　　　　　山　尾　典　子**

**妻高等学校長　　　　　　　　　　　　　　　三　浦　正　貴**

**宮崎県ローイング協会理事長　　　　　　　　川　上　哲　郎**

**大会委員長　　宮崎県高等学校体育連盟理事長　　　　　　　黒　木　章　宏**

**大会副委員長　宮崎県高体連ローイング専門部専門委員長　　柴　田　友　輔**

**開催地支部理事長　　高鍋高等学校　　　　　　　　　　　　檜　室　秀　幸**

**委員　　大庭　南　　　持原奈美子　　　柴　田　美　恵**

**競　技　役　員**

**競漕委員長　　　　　　柴　田　友　輔**

**競　漕　委　員　　　　熊　川　大　輔**

**審　判　長　　　　　　小　牧　英　憲**

**審　判　委　員　　　　川　上　哲　郎　　　　　緒　方　咲　耶**

**山　下　耕　司　　　　　今　井　桃　子**

**総務委員長　　　　　　平山遼太郎**

**記録委員長　　　　　　柴　田　美　恵**

**記録委員　　　　　　　持原奈美子　　　　　中　武　由　宇**

**水路委員長　　　　　　柴　田　友　輔　　　　　平山遼太郎**

**水　路　委　員　　　　大　島　寿　永　　　　　今　井　桃　子**

**舟艇委員長　　　　　　柴　田　友　輔**

**ボートホルダー　　　　高鍋高校ボート部員　　　妻高校ボート部員**

**※状況によってはボートホルダーを設置しない（部員人数・天候等）**

**放　　　　送　　　　　持原奈美子**

**式　典　次　第**

**開会式　　　６月　１日（土）　　１３：００～**

**場所　　　　富田浜漕艇場　ボートコース　本部テント前**

**会次第　１　開式のことば　　　　　　　大庭　南　　専門委員**

**２　あいさつ　　　　　　　　　山尾　典子　　専門部長**

**３　競技上の注意　　　　　　　審判部**

**４　トラフィックルール説明　　柴田　友輔　　専門委員長**

**５****閉式のことば　　　　　　　大庭　南　　専門委員**

**閉会式　　　６月　２日（日）　競技終了後**

**場所　　　　富田浜漕艇場　ボートコース　本部テント前**

**会次第　１　開式のことば　　　　　　　大庭　南　　専門委員**

**２　表　　彰　　　　　　　　　川上　哲郎（宮崎県ローイング協会）**

**介添　高校生マネージャー**

**３　講　　評　　　　　　　　　川上　哲郎（宮崎県ローイング協会）**

**４　閉式のことば　　　　　　　大庭　南　　専門委員**

**５　諸連絡　　　　　　　　　　柴田　友輔　専門委員長**

**参加クルー　一覧（県大会のみシート変更は届け無しで可とする。）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **種目** | **シート** | **高　鍋** | **妻** |
| **W１X** | **S** | **中武音羽****(なかたけとわ)** |  |
| **M１X** | **S** | **井上佑人****(いのうえゆうと)** | **河野亨亮****(かわのとおま)** |
| **W２X** | **S** | **甲斐理乃****(かいりの)** |  |
| **B** | **田中舞****(たなかまい)** |  |
| **補漕** |  |  |
| **M２X** | **S** | **杉恭多****(すぎきょうた)**  | **河野幸翔****（かわのゆきと）** |
| **B** | **永友雄大****(ながともゆうだい)** | **黒木将太****（くろぎしょうた）** |
| **補漕** | **中尾洸貴****(なかおこうき)** | **松浦陽大****（まつうらひなた）** |
| **W４X＋** | **C** | **岩切麗****（いわきりうらら)** | **市来優良****（いちきゆら）** |
| **S** | **村井木の葉****（むらいこのは）** | **地田侑多****（ちだうた）** |
| **３** | **永友美妃****(ながともみひめ)** | **白山莉心****（しらやまりこ）** |
| **２** | **進藤祐衣****（しんどうゆい）** | **関谷陽菜****（せきやひな）** |
| **B** | **平尾柚****(ひらおゆう)** | **姫野梓****（ひめのあずさ）** |
| **補漕** | **味坂姫奈****(あじさかひな)** |  |
| **補漕** | **日髙凜****（ひだかりん）** |  |
| **M４X＋** | **C** | **平塚純太****(ひらつかじゅんた)** | **堀田羽槻****（ほりたはづき）** |
| **S** | **笈田真義****(おいだしんぎ)** | **小原宗真****(おはらそうま)** |
| **３** | **橋口翔太****（はしぐちしょうた）** | **日髙颯斗****（ひだかはやと）** |
| **２** | **吉田悠飛****(よしだゆうと)** | **杉尾蒼也****（すぎおそうや）** |
| **B** | **馬場義斗****（ばばよしと）** | **日髙巧也****(ひだかたくや)** |
| **補漕** | **串間太亮****（くしまたいすけ）** | **河野幸翔****（かわのゆきと）** |
| **補漕** | **安達遥哉****（あだちはるや）** | **黒木将太****（くろぎしょうた）** |

**～〔競技上の諸注意〕～**

**１．健康管理には十分注意を払い、万全の状態でレースに臨むよう心掛ける。**

**２．クルー及び参加者は事故が起こらないようトラフィックルール、危険個所の把握などに努める。乗艇中の声掛けやレース後の体調管理などにも注意する。**

**３．レース及び大会期間中クルーの安全及び事故防止の為に予定を変更する場合がある。**

**４．本大会は日本ボート協会競漕規則及び本大会要項に基づいて実施する。**

**５．警告とその取扱いについて**

**①大会期間中の航行ルールを守らない場合**

**②何らかの警告を受けたクルーが不正スタートを行うと除外になる。**

**(同一レースでの２度の不正スタート及び１日に２度の警告)**

**６．レース終了後決勝線を通過したクルーは審判の白旗が揚るまでゴール付近で待機する。**

**赤旗が上がった場合はその場に待機して主審の指示を待つ。**

**７．レースに対して異議がある場合はその場で審判に申告する。**

**８．主審が白旗を挙げた場合、クルーは水上ダウンを行い速やかに出艇所へ戻る。**

**９．県大会において舵手の計量(男:55㎏/女:50㎏)は実施する。**

**～〔本大会オリジナルルール〕～**

**(１)予選・決勝レースで２勝した場合は終了。同一順位が２回出た場合は当該クルーは決勝２から順位を認めて除く。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **予選** | **決勝** | **決勝２** |
| **Ａクルー** | **１位** | **３位** | **１．３位決定戦** |
| **Ｂクルー** | **２位** | **２位** | **※同一順位が２回出たので準優勝とする** |
| **Ｃクルー** | **３位** | **１位** | **１．３位決定戦** |

**例）**

**(２)「(1)」において、同一クルーが２勝しなかった場合は決勝レース２を行う。それでも同率の場合は①順位の平均②タイムの平均で決勝判断する。また、３クルー以上で競う場合は、決勝を判断したレースの算出方法にて最終順位とする。**

**(３)組数や漕力の関係で混成レースや時間差でのスタートを行う場合がある。**

**(４)オープン参加のクルーは勝敗に加算しない。**

**(５)開閉会式に出会しなかったクルーは失格とみなす。**

**～〔審判上の諸注意〕～**

１．健康について

・健康管理に十分留意するとともに体調不良になった場合などは速やかに顧問の先生、役員や審判に申し出てください。

２．事故防止について

**回漕するクルーは、競漕艇が近づいたら100ｍ手前で停止し、競漕の通過を待ってください。*違反すると警告となります。***

３．コースへの侵入について

　コースへの侵入は発艇員からのコールがなければ侵入することができません。

　①コールは「レース№、クルー名、レーン番号、残り時間（〇〇ミニッツ）」です。

　②**発艇定刻２分前までにボートホルダーについていなければいけません。**

***違反すると警告となります。***

４．発艇合図について

(1) 発艇号令が聞こえない場合がありうるので、クルーは旗の動きを見てスタートしてください。

(2)風波等の場合は「クイックスタート」を行います。

(3)発艇猶予は認めません。発艇号令にも関わらず発艇しなかったクルーは、競漕権を　放棄したものとみなします。

(4)フォルススタートを発見した場合は、発艇員または主審が赤旗を掲げ、鐘を鳴らし「止まれ！レース中止！」とコールし、レースを一時中止することがあります。また、当該クルーは警告を受けます。

※①発艇号令は、ロールコール（出漕クルーの名前を呼ぶこと）の後、「attention（アテンション）」「go（ゴー）」で行います。

　　　②クイックスタートは「クイックスタート」「attention（アテンション）」「go（ゴー）」で行います。→「クイックスタート」或いは「オールクルーズ」の号令。

５．競漕上の注意

(1)競漕中、自己のレーンから外れるおそれのあるクルーに対して、主審は**白旗を掲げ当該クルー名をコールし、進むべき方向へ白旗を倒し**警告を与えます。警告を受けたクルーは、**直ちに自己のレーンに戻ってください。**

(2)**競漕中、主審は接触・衝突等の危険が生じクルーに対し白旗を掲げ、「○○止まれ！」とコールし当該クルーのみの競漕を一時中止させることがあります。**危険を回避した後は再び競漕に復帰してください。また、全艇に危険がある場合は赤旗を掲げ、鐘を鳴らし、「止まれ！レース中止！」とコールし、競漕を一時中止させることもあります。

(3)競漕中、極端に遅れたクルーを主審艇が追い越すことがあります。

(4)レース中、回漕クルーはレースの100m手前からレースが通過するまで停止する。

６．レース終了後

(1)決勝線を通過したクルーは、主審艇が白旗を揚げるまでゴール付近で待機する。

(2)レースに対する異議の申し立ては、主審が白旗を揚げる前に手を挙げて申し出る。

７．レース中の落水

　自力で乗艇して決勝線を通過した時は順位が認められます。ただし、次のレースに支障がある場合、主審が危険と判断した場合は、当該クルーを救助し、除外とする場合もあります。

８．無線通信機器等の禁止

　艇内に無線通信機器を持ち込むことはできません。違反すると失格になります。

９．その他

　決勝線（スタート・ゴール・中間などの測定線）とレースレーン内では停止しない。

　レース接近中であっても決勝線上では避ける事。

１０．舵手（コックス）計量について

 １　本大会は、（公社）日本ボート協会「競漕規則」に準じ、舵手計量を実施する。

 ２　舵手の体重は、ユニフォーム（※１）および一部装着が認められたパーソナルアイテ

　　ム（※２）を含め男子種目においては５５kg以上、女子種目においては、５０kg以上とする。これに満たない場合は、規定の重量に達するため、艇内の舵手に最も近い場所（※３）に、最大15kg（※４）のデッドウェイトを置かなければならない。

 ３　舵手体重の計量は、開会式開始の１時間前から１０分前まで（※5）に、大会本部で実施する。それ以降はその日の第一レースの１時間前から１０分前に実施する。

 ４　デッドウェイトを携行しないまま出漕した場合は、除外となる。

 ５　デッドウェイトは、当日の自らの最終レース終了後、大会本部へ返却する。

 　※１　ローイングスーツのみ（アンダーウェア、レギンス、時計、帽子、靴下等を含まない）

 　※２　眼鏡（サングラスとは別）、補聴器など身体機能を補完するもの。思想信条上で着用しているもの（ミサンガ等）

※３　COXシートに配置

（それ以外に配置した場合は、デッドウェイトとして認められない。４と同じ取り扱い）

※４　男子：40kg未満、女子：35kg未満は、大会に参加することができない。

**応援・観戦上の注意**

**・自転車及び車両での伴走は安全上の配慮により禁止です**

**・安全、マナーで悪質な場合は当該クルーへのペナルティーあり**

**・応援の方々もクルーの一員としての自覚を持って下さい。**

**・応援は密な状態を避けて間隔をとってお願い致します。**

**昨年度記録(先輩達を超えて行け!!)** 

**点数換算表**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **勝ち点** | **１位** | **２位** | **３位** | **４位** |
| **４×＋** | **１０** | **８** | **６** | **４** |
| **２×** | **６** | **５** | **４** | **３** |
| **１×** | **４** | **３** | **２** | **１** |

**・同点の場合は優勝数の多いチームの勝ち**

**・更に同点の場合は準優勝の多いチームの勝ち**

**・種目別(1～2位)　・男女総合優勝を表彰する**

**ローイング競技の見方**

**１．競技種目**

　　　ローイング競技（旧称：ボート競技）は、ボートレースまたはレガッタ（競漕会）ともいわれ、競漕会で使用される競争艇は１０種類ありますが、高校生においては３種類を使います。

　　　競漕種目としては、舵手付きクォドルプル（男女）・ダブルスカル（男女）・シングルスカル（男女）がある。

　　　その他にも国民体育大会、全日本選手権では様々な種目がある。

**２．艇の分類**

　　　高校生が使用する艇について説明します。細かなデータは使用状況や製造会社・使用によって多岐に渡りますのでおおよその目安とします。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 全長(約) | 幅(約) | 重量(約) | その他 |
| 舵手付きクォドルプル | １２．８ｍ | ４８ｃｍ | ５５ｋｇ | 舵手(ＣＯＸ)が乗る |
| ダブルスカル | ９．４ｍ | ３４ｃｍ | ２９ｋｇ |  |
| シングルスカル | ７．９ｍ | ２７ｃｍ | １６ｋｇ |  |

　　　※製造メーカー・材質・年代によって異なる

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **記号** | **名称** | **記号** | **名称** |
| М１× | 男子シングルスカル | Ｗ１× | 女子シングルスカル |
| М２× | 男子ダブルスカル | Ｗ２× | 女子ダブルスカル |
| М４×＋ | 男子舵手付きクォドルプル | Ｗ４×＋ | 女子舵手付きクォドルプル |

　　　舵手付きクォドルプルは、漕手４名（体重制限なし）・舵手１名（男子５５ｋｇ以上、女子５０ｋｇ以上※体重が満たない場合は重りを携帯する）、ダブルスカルは漕手２名、シングルスカルは漕手１名が乗艇します。高校生はスカル種目と呼ばれる左右２本のオールを持ちます。特にダブルスカル・シングルスカルは舵がなく、漕手は２本のオールで艇を直進させるため、高度な技術を必要とします。

　　　高校生以上の種目では１人１本のオールを持つスィープ種目があり、最大人数はエイトの漕手８名と舵手１名である。大学選手権や全日本選手権では花形とされる種目である。

　　　すべての艇は、滑座艇（スライディング艇）で座席の下に２本のレールがあり、足の屈伸運動によって座席が前後に動き、自然な脚運動が出来るように造られているのが特色です。オールの支持具（リガー）は艇外に張り出して取り付けています。

**３．競技方法**

　　　国民スポーツ大会・インターハイでの競漕距離は、各種目男女ともに１０００ｍです。スタートには各レーン（漕路）にスティックボードが固定されており、出漕艇（クルー）は、このスティックボードに艇尾をつけ、艇首をゴールに向け、発艇線（スタートライン）に並びます。発艇時間になりますと、発艇員（スターター）は各クルー名をロールコールし、各艇の準備完了を確認してから「アテンション」次いで「ゴー」の号令と共に、小旗を振り下ろして発艇させます。これがボートレースのスタートです。

　　　勝敗は艇の先端（トップボール）が決勝線（ゴールライン）に到着した順序で決めますが、全艇がゴールし、審判艇から白旗が揚がってレースは成立し、レースの途中でのコースの侵害、妨害等がありますと審判艇から赤旗が揚がり、そのクルーは除外又は、失格となる場合があります。

　　　また、スタートでの２度のフライングを犯すと、そのクルーは競漕から除外されます。加えて発艇（スタート）時間への遅刻などもフライング１回と見なされる場合があります。

　　　レーン（漕路）の呼び方は、発艇員席からみて左側から１レーン、２レーンの順に呼びます。

**４．クルーポジションの役割**

　　　舵手付きクォドルプルでは艇首に最も近い漕手を舳手（Ｂ：バウ）と呼び、以下順番に２番、３番、整調（Ｓ：ストローク）、舵手（Ｃ：コックス）といいます。

　　　舵手はスタートからゴールまで艇が最短距離を進むように操舵し、また漕手が練習の成果を発揮できるよう心理面でのリードも必要です。

**５．レート（ピッチ）**

　　　レートとは１分間に漕ぐオールの回数を言います。レース中はスタートダッシュをハイレートで、中間はコンスタントレート、そしてラストはハイレートといった具合に上げ下げします。

　　　コンスタントレートとは最も無駄がなく、しかも艇速が伸びる時のレートの事です。レートは艇種、クルーの体格、力量、漕ぐ距離、水面の状態などによって異なりますが、日頃の練習によって最も効率的なピッチで漕ぐようにしています。

**６．水があく**

　　　艇の艇尾と艇の艇種とがすれすれの場合は、差は一艇身で、これを真横から見て、先行する艇の艇尾と迫漕する艇の艇首との間に水がみられるとき、「水があく」と称し、一艇身以上の差を示すものです。

**７．レースの見どころ**

スタートした艇は非常に高いレートで漕ぎだしますが、これがスタートダッシュです。各クルーのそれぞれの固有のレートを持っています。スタートでリードしてそのまま逃げ込む作戦の場合はスタートダッシュが長くなります。また、レースの途中で急にレートが上がる場合は、これはミドルスパートです。ボートレースでは水があいた場合、その差を縮めるには、よほど力漕しないと差はつまりません。

　　　リードされたクルーは差を縮めようと、リードしているクルーは更に差を広げようと懸命に力漕します。数センチを争うような接戦になりますと、スパートは極めて重要な作戦になってきます。どのクルーもゴール前100ｍ付近で最後の力漕に入ります。これがラストスパートです。

　　　競漕競技のタイムは風・波・水深などによって大幅に左右されるので、公認記録制度はありません。男子のシングルスカルの静水無風状態で3分35秒程度だと言われています。女子は男子に対して25秒ほど差があるようです。

**８．本県の現状として**

宮崎県は全国的に見ても競技の普及が緩慢な県です。理由としてはボート競技を指導できる指導者の不在、ボート競技を実施できる環境の不備などがあります。過去には「宮崎電子高校・宮崎水産高校・延岡西高・宮崎第一高校・延岡高校・西都商業・日向高校・高鍋農業・西都商業」と多くの高校にボート部があったようですが、どれも一度にこれらが存在していた訳ではなく、総体や国体が宮崎で行われたタイミングやボート競技出身や指導可能な教員の転勤等に伴って、創部と廃部を繰り返してきた様子です。ボート競技を実施するには艇・オール・水域など様々な条件を必要とします。それらの全てが学校に備わっている訳ではないので、ボート競技に出会う事が出来た選手たちは運命的な出会いをしてくれたと言っても過言ではありません。部活動の種目は学校によってもバラつきがあり、その中でも更に特殊な環境を必要とする種目に出会えたのです。宮崎県ボート協会を始めとする競技関係者は運命的な出会いをしてくれた選手・コックス・マネージャーの為に出来る事は全てをやって、充実した競技生活を送ってもらえるようサポートして行きます。

今後の競技の為にも現役ボート部員や卒業生には是非とも**様々な形でボート競技に携わって欲しい**ものです。生涯にわたって様々な形で競技に触れて行く事は今後の後輩や宮崎県全体、ひいては九州・日本全体の競技力向上に繋がる事は間違いありません。人生のそれぞれの段階で、選手・指導者・サポートスタッフ・審判・応援する側など色々な側面でスポーツに関わってくれる事を祈っています。

**〔安全について〕**

**以下の場合は競技を中断する場合もある**

**・漁船等の侵入による安全確保のためのレース中断**

**・漂流物、浅瀬等による安全確保のためのレース中断**

**・天候による中断（風・波・雷など）**

**※雷に対する対応は以下の規準で判断する**

**➀雷注意報発令時で、県内で落雷が発生している場合は待機**

**➁雷鳴・稲光を確認した場合は直ちに中断**

**➂　➁において中断した後、最後の雷鳴か稲光から30分間何事もなけれ**

**ば天気情報サイト（ナウキャスト）を確認し、大会本部で判断する*。***